

和歌山方式イチゴ高設栽培システムの開発

低コストで自家施工できる高設栽培装置

研究開発の背景

- ◇土耕でのイチゴ栽培は中腰での作業が多く、栽培管理や収穫作業の作業者への負担が非常に大きく、軽労化が課題であった。
- ◇市販の栽培装置は、高価で10aあたり400万円以上するものもあり、コスト低減のため、容易に入手できる資材で農家が自家施工できる簡易な作成ノウハウの開発が求められていた。

研究成果の内容

設置費用25%、作業負担35%カットで低コスト実現

○高設栽培ベッド

- ・直管パイプ（φ22mm）と防草シートによるハンモック方式。
- ・培地は粗めのピートモス100%で、培地量は株当たり4L（80L/m）。
- ・材料費は300万円程度（給液装置含む）で、自家施工できる簡易な構造。

○作成資材リストの公表

○作業環境の改善

- ・作業時間の低減 <土耕比94%>
高設2300時間/土耕2450時間
- ・作業姿勢改善による作業負担の低減 <土耕比65%>

○栽培管理の標準化

- ・肥培管理のマニュアル化
「さちのか」給液管理例の作成



産地の状況

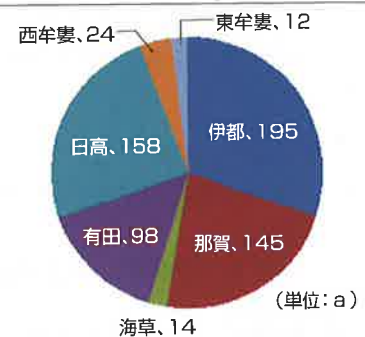
○高設栽培面積は拡大中

- ・イチゴ高設栽培面積シェアは約2割（7ha）
- ・和歌山方式は、高設栽培の40%を占める。

地域別面積

○新規参入者で多い導入事例

- ・「まりひめ」の普及に伴い、新規参入者が増加するとともに本方式の高設栽培が多く導入されている。



期待される効果

- ☆作業性の向上により、若手農業者のイチゴ栽培参入、産地の維持拡大に寄与。
- ☆高設化に伴う肥培管理、CO₂等環境制御技術の普及により、収益性が飛躍的に向上。